

専門学校ESPエンタテインメント東京

授業科目名	エンタテインメント業界基礎講座	授業形態 / 必・選	講義	必修	
		年次	1年次		
授業時間	90分(1単位時間45分)	年間授業数	40回(80単位時間)	年間単位数	5単位
科目設置学科コース	レコーディングコース、PA&レコーディングコース				
授業科目要件	実務経験のある教員による授業科目		該当 <input checked="" type="checkbox"/>	非該当 <input type="checkbox"/>	
担当講師 実務経歴	実務経歴:14年 商業用レコーディングスタジオに就職し、様々なアーティストのレコーディングに携わった後、フリーランスとして活躍。レコーディングエンジニアとして音楽だけでなく、ナレーション、アフレコ等、多岐に渡る仕事に携わっている。				
授業概要					
挨拶、敬語等の基本的なマナー、各種機材、エンタテインメント業界の知識、および音楽関連の知識の修得。					
到達目標					
社会人として必要なマナーの修得。 自分が扱う機材についての知識の修得。					

授業計画・内容	
【前期】 1～5回目	挨拶の重要性・敬語について・学ぶということに関して 情報漏洩の危険性について・コンプライアンスについて・
【前期】 6～10回目	ノートのとり方 デジタルについて インターフェースについて
【前期】 11～15回目	ヘッドホンについてと選び方 スピーカーの役割と必要性 リファレンスについて
【前期】 16～20回目	リバーブの発展と歴史 ディレイの発展と歴史 空間系の総合的な使用法
【後期】 1～4回目	LFOについて モジュレーション系エフェクタについて 歪み系エフェクタの発展と歴史
【後期】 5～8回目	MIDIについて インストゥルメントと使い方の基礎 各種ウェイブフォームについて
【後期】 9～12回目	商業としての音楽について 音楽著作権と各会社の関連について リズムと音符
【後期】 13～16回目	リハーサルマークと曲の構成 略譜面の作り方 音楽制作の問題点
【後期】 17～20回目	記録メディアの発展と歴史 コンピュータ内部のパーツについて Macintoshの歴史とスペックの見方
評価方法	学期末の試験、及び平常点(授業態度、レポート提出状況・内容、出席率等を総合的に評価)
学生へのメッセージ	主にレコーディングエンジニア・PAエンジニアの視点から音楽業界についての基礎を学んで行きましょう。
使用教科書	オリジナルテキストを随時配布

専門学校ESPエンタテインメント東京

授業科目名	音響基礎知識	授業形態 / 必・選	講義	必修	
		年次	1年次		
授業時間	90分(1単位時間45分)	年間授業数	40回(80単位時間)	年間単位数	5単位
科目設置学科コース	レコーディングコース、PA&レコーディングコース				
授業科目要件	実務経験のある教員による授業科目		該当 <input checked="" type="checkbox"/>	非該当 <input type="checkbox"/>	
担当講師 実務経歴	実務経歴:31年 コロムビアスタジオにてアシスタントを経験し、サウンドスカイスタジオに移籍。その後トーンマイスターにて専属エンジニアとなる。1999年よりフリーランスとなりレコーディングエンジニア、PAエンジニアとして活躍中。				
授業概要					
レコーディング実習 I・PA実習 I が実践中心の授業であるのに対して、本授業では、スタジオ内の機材ひとつひとつの名称や使用方法等、基礎知識を学ぶ。					
到達目標					
理論的な理解を深め、正しい機材取扱い方法の修得。 物理学的な要素を学び、正しい音響機器の設置方法、音場整理の修得。					

授業計画・内容	
【前期】 1～5回目	ダイナミック・マイクロフォンの構造について ダイレクト・ボックスについて
【前期】 6～10回目	インピーダンスについて トランスの構造、変圧について
【前期】 11～15回目	楽器の名称及び略記号について イコライザーについて
【前期】 16～20回目	リバーブについて ディレイの応用機
【後期】 1～4回目	ハース効果とは(PAで使用する場合/レコーディングで使用する場合)
【後期】 5～8回目	スピーカーの構造(コーン型/ドーム型)
【後期】 9～12回目	エンクロージャーについて さまざまなチャンネルディバイダー
【後期】 13～16回目	さまざまなメーター コンプレッサー
【後期】 17～20回目	エキスパンダー、ノイズゲート VCAグループとサブグループ
評価方法	学期末の試験、及び平常点(授業態度、レポート提出状況・内容、出席率等を総合的に評価)
学生へのメッセージ	講義形式でレコーディングについて、またレコーディングスタジオに設置されている機材について学ぶ授業です。レコーディングスタジオでたくさん機材に触れる時間が確保できるよう、基礎から学んで行きましょう。
使用教科書	オリジナルテキストを随時配布

専門学校ESPエンタテインメント東京

授業科目名	音楽理論		授業形態 / 必・選	講義	必修
			年次	1年次	
授業時間	90分(1単位時間45分)	年間授業数	40回(80単位時間)	年間単位数	5単位
科目設置学科コース	レコーディングコース、PA&レコーディングコース				
授業科目要件	実務経験のある教員による授業科目		該当 <input checked="" type="checkbox"/>	非該当 <input type="checkbox"/>	
担当講師 実務経歴	実務経歴: 25年 大学にてクラシックピアノを学んだ後、ピアニストとして活動を開始。クラシック・ポピュラーミュージック・ジャズ等、ジャンルにとらわれず様々なレコーディングやライブに携わり、海外での演奏も行うなど精力的に活動中。				
授業概要					
五線譜を用意し、自ら音符を書き込む。 五線譜に書いた音符を手拍子等でリズムを表現する。					
到達目標					
音楽の構成を理論的に分析、把握する技術の修得。 楽譜の読み書きが出来る。					

授業計画・内容	
【前期】 1～5回目	音の三要素と音楽の三要素 音律(純音律と平均律)について 変化記号について
【前期】 6～10回目	記譜法 速度、強弱、奏法、省略記号に関する基礎知識 音階について
【前期】 11～15回目	音程について Major triadについて
【前期】 16～20回目	Minor triadについて augment triadについて
【後期】 1～4回目	diminish triadについて 4和音について
【後期】 5～8回目	Major 6thについて minor 6thについて
【後期】 9～12回目	<input type="checkbox"/> 7 sus4について <input type="checkbox"/> 7 (b 5)について
【後期】 13～16回目	diminish 7thについて コードの回転
【後期】 17～20回目	diatonic chordについて リズムトレーニング
評価方法	学期末の試験、及び平常点(授業態度、レポート提出状況・内容、出席率等を総合的に評価)
学生へのメッセージ	基本的な楽譜の読解を基礎から学びなおします。エンジニアに必要とされる譜面に対する知識を楽しく学んでいきましょう。
使用教科書	オリジナルテキストを随時配布

専門学校ESPエンタテインメント東京

授業科目名	サウンドアナライズ	授業形態 / 必・選	講義	必修	
		年次	1年次		
授業時間	90分(1単位時間45分)	年間授業数	40回(80単位時間)	年間単位数	5単位
科目設置学科コース	レコーディングコース、PA&レコーディングコース				
授業科目要件	実務経験のある教員による授業科目		該当 <input checked="" type="checkbox"/>	非該当 <input type="checkbox"/>	
担当講師 実務経歴	実務経歴:31年 大学にてジャズギターを学んだ後、卒業後はCM作曲家として活動を始め現在に至る。				
授業概要					
さまざまな年代、ジャンルの音楽について知識を深める。 音楽の歴史背景だけでなく楽曲そのものにも触れていく。					
到達目標					
エンジニアとしてアーティストの要望に対応するための幅を広げる。					

授業計画・内容	
【前期】 1～5回目	<ul style="list-style-type: none"> クラシック(古典派) 弦楽四重奏(Vln、Vla、Vc、Cb) クラシック(ロマン派) Apf ラグタイム Resonator
【前期】 6～10回目	<ul style="list-style-type: none"> ブルース Guitar、Harmonica ジャズ Tp、Sax、Tb、C.B、Hammond Organ、Leslie Speaker (ビックバンドジャズ) Vib、Ondes Martenot
【前期】 11～15回目	<ul style="list-style-type: none"> カントリーミュージック Banjo、Steel Guitar、Resonator G. R&B(リズム&ブルース) Mandolin、Bandoneon、Auto Harp ゴスペル String Bender、Wurlitzer、Clavinet
【前期】 16～20回目	<ul style="list-style-type: none"> ロックンロール 70年代歌謡曲 CP70 80年代歌謡曲 DX-7
【後期】 1～4回目	<ul style="list-style-type: none"> 90年代歌謡曲 SEQ ロック Mellotron、Moog Theremin サーフィンロック ・グラムロック
【後期】 5～8回目	<ul style="list-style-type: none"> プログレッシブロック ・パンクロック ハードロック Mashall、Fender Twin、Ampeg フュージョン Rhodes
【後期】 9～12回目	<ul style="list-style-type: none"> ボサノヴァ ・シャンソン インディアンミュージック Sitar、Electric Sitar レゲエ
【後期】 13～16回目	<ul style="list-style-type: none"> ハワイアンミュージック Ukulele ヘビーメタル Twin BD ジャパニーズ・メタル
【後期】 17～20回目	<ul style="list-style-type: none"> ヴィジュアル系ロック ジャパニーズ・ロック
評価方法	学期末の試験、及び平常点(授業態度、レポート提出状況・内容、出席率等を総合的に評価)
学生へのメッセージ	エンジニアになるためには、皆さんの聴かない音楽ジャンルを知ることが必要です。皆さんと一緒に音楽の歴史を楽しみながら学んで行きましょう。
使用教科書	オリジナルテキストを随時配布

専門学校ESPエンタテインメント東京

授業科目名	ProTools講座 I		授業形態 / 必・選	講義	必修
			年次	1年次	
授業時間	90分(1単位時間45分)	年間授業数	40回(80単位時間)	年間単位数	5単位
科目設置学科コース	レコーディングコース、PA&レコーディングコース				
授業科目要件	実務経験のある教員による授業科目 該当 <input checked="" type="checkbox"/> 非該当 <input type="checkbox"/>				
担当講師 実務経歴	実務経歴:14年 商業用レコーディングスタジオに就職し、様々なアーティストのレコーディングに携わった後、フリーランスとして活躍。レコーディングエンジニアとして音楽だけでなく、ナレーション、アフレコ等、多岐に渡る仕事に携わっている。				
授業概要					
レコーディングスタジオで円滑にPro Toolsが操作できるよう学習する。					
到達目標					
Pro Tools、ミキシングの基礎技術の修得。					

授業計画・内容	
【前期】 1～5回目	DAWについて デジタルレコーディングとは なぜMacintoshが使われているか
【前期】 6～10回目	ProToolsの歴史と発展 SessionFileの取り扱いと構造 サンプリング周波数について
【前期】 11～15回目	ビットレートについて Sessionの立ち上げ方 リネームの方法と必要性
【前期】 16～20回目	フェーダーとパン ソロとミュート 再生系とカウンター
【後期】 1～4回目	リズム楽器とベース音のバランス スピーカーとヘッドホンでのミキシングの注意点 プラグインリバーブの立ち上げ方
【後期】 5～8回目	各種トラックの属性と使い方 TickとSampleの違い ミックスウインドウとエディットウインドウ
【後期】 9～12回目	ツールについて モードについて 分秒と小節拍の使い分け
【後期】 13～16回目	トリムを用いたクリップの処理 フェードとクロスフェード セクターと選択範囲
【後期】 17～20回目	ナッチングについて クリップの透過 プレイリストについて
評価方法	学期末の試験、及び平常点(授業態度、レポート提出状況・内容、出席率等を総合的に評価)
学生へのメッセージ	レコーディングに欠かせないPro Toolsを基礎から学びましょう。レコーディングスタジオでは素早いPro Toolsのオペレートが要求されるため、この授業で確実にスキルを身に付けましょう。
使用教科書	オリジナルテキストを随時配布

専門学校ESPエンタテインメント東京

授業科目名	PC基礎	授業形態 / 必・選	講義	必修	
		年次	1年次		
授業時間	90分(1単位時間45分)	年間授業数	40回(80単位時間)	年間単位数	5単位
科目設置学科コース	レコーディングコース、PA&レコーディングコース				
授業科目要件	実務経験のある教員による授業科目		該当 <input checked="" type="checkbox"/>	非該当 <input type="checkbox"/>	
担当講師 実務経歴	実務経歴:31年 大学にてジャズギターを学んだ後、卒業後はCM作曲家として活動を始め、現在に至るまで作曲や、楽曲のプレゼン、楽曲とコンテンツ(画像・動画等)を合わせた納品等を行う。				
授業概要					
Macを使用したPCの基本的な操作方法、一般社会で必要とされる代表的なアプリケーションの操作方法について学ぶ。					
到達目標					
Macの基本的な使用方法の修得。 Word、Excel、Illustrator、Photoshopの基本知識、技術の修得。					

授業計画・内容	
【前期】 1～5回目	CPU、Memory、HD、パソコンの単位を含めたMacの基本操作方法など説明 学校サーバー接続設定 拡張子の説明、ショートカットの使用方法・メールの送信方法など説明
【前期】 6～10回目	Wordの基本操作、機能の説明、タイピング練習 インデント、タブ機能の説明、図形などの使用方法の説明 Wordを使用してタイピング練習
【前期】 11～15回目	Excelの基本操作、機能の説明 様々なグラフ作り 見積もり書を作成
【前期】 16～20回目	VLOOKUPの説明 VLOOKUPの応用
【後期】 1～4回目	Illustratorの基本操作、ペンツールの基本使用方法の説明(直線) ペンツールの基本使用方法の説明 簡単なトレース作業
【後期】 5～8回目	Illustratorで使用する、その他の機能説明 間取り図を作成
【後期】 9～12回目	地図作り トレース作業
【後期】 13～16回目	Photoshopの基本操作、機能の説明 Vanishing Pointの説明と応用
【後期】 17～20回目	合成課題(電球魚) パノラマ写真、ビルと動く空
評価方法	学期末の試験、及び平常点(授業態度、レポート提出状況・内容、出席率等を総合的に評価)
学生へのメッセージ	Word、Excel、Illustrator、Photoshopなどのソフトを学び、効率の良いビジネス文書や書類の作成方法を学びます。PCの基礎から学んでいきますので、PCに触れたことがないという方、安心してください。しっかり基礎からサポートします。一緒に楽しく勉強し
使用教科書	オリジナルテキストを随時配布

専門学校ESPエンタテインメント東京

授業科目名	PA実習 I	授業形態 / 必・選	実習	必修	
		年次	1年次		
授業時間	90分(1単位時間45分)	年間授業数	86回(172単位時間)	年間単位数	5単位
科目設置学科コース	PA&レコーディングコース				
授業科目要件	実務経験のある教員による授業科目		該当 <input checked="" type="checkbox"/>	非該当 <input type="checkbox"/>	
担当講師 実務経歴	実務経歴:16年 ライブハウスにてキャリアをスタートし、商業施設のPAからコンサートPAまで様々なシチュエーションで活躍している。現在ではライブレコーディングも担当し、活躍の幅を広げている。				
授業概要					
簡易PAセットを使ったセッティングの基本からプロ仕様の機材を使ったコンサート現場を想定したセッティング、およびユニットなど少人数編成から、4人編成程度のバンドオペレートについて学ぶ。					
到達目標					
アナログ機材についての理解、2年次のデジタル機材を学ぶ準備を整える。					

授業計画・内容	
【前期】 1～4回目	PAについて ライブホールについて ライブホールの使用上の注意 ライブホールの構造について
【前期】 5～12回目	ケーブルの種類と取り扱い スタンドの種類と取り扱い マイクの種類と取り扱い
【前期】 13～20回目	スピーカーの種類と取り扱い Inputの信号の流れについて OutPutの信号の流れについて
【前期】 21～30回目	Mixerの構造の基本 結線とマイクの置き方、片付け方 簡易PAセットを使い、音を出して信号の流れを確認
【前期】 31～38回目	マイク、スピーカーチェックについて ヴォーカル、カラオケの編成を想定したセッティング DIについて
【後期】 1～8回目	DIを使用した場合の信号のチェック方法について DIが必要なセッティング例について ヴォーカル、アコースティックギター、エレクトリックピアノの編成を想定したセッティン
【後期】 9～16回目	パラメトリックイコライザーの操作方法について グラフィックイコライザーの操作方法について アナログMixerの操作方法について
【後期】 17～32回目	スピーカーのマウント方法について マルチボックス・マルチケーブルの役割について バンド編成のセッティングについて
【後期】 33～48回目	スピーカーチューニングについて PAにおけるミキシングについて バンド編成のセッティング・チェック・オペレートについて
評価方法	学期末の試験、及び平常点(授業態度、レポート提出状況・内容、出席率等を総合的に評価)
学生へのメッセージ	簡易PAセットを使い、PAシステムの基礎から、小ホールクラスのPAセッティングを学びます。1年次はアナログ機材を中心に学び、2年次の応用や、デジタル機材を理解するための土台を作りましょう。
使用教科書	オリジナルテキストを随時配布

専門学校ESPエンタテインメント東京

授業科目名	レコーディング実習 I	授業形態 / 必・選	実習	必修	
		年次	1年次		
授業時間	90分(1単位時間45分)	年間授業数	86回(172単位時間)	年間単位数	5単位
科目設置学科コース	レコーディングコース、PA&レコーディングコース				
授業科目要件	実務経験のある教員による授業科目		該当 <input checked="" type="checkbox"/>	非該当 <input type="checkbox"/>	
担当講師 実務経歴	実務経歴:14年 商業用レコーディングスタジオに就職し、様々なアーティストのレコーディングに携わった後、フリーランスとして活躍。レコーディングエンジニアとして音楽だけでなく、ナレーション、アフレコ等、多岐に渡る仕事に携わっている。				
授業概要					
レコーディングにおける、プランニング、マイキング、楽器や歌の録り方、ミキシング、マスタリングと一連の流れを学ぶ。					
到達目標					
2年次の技術修得に向けて基礎的な技術力を身に付ける。					

授業計画・内容	
【前期】 1～4回目	レコーディングについて レコーディングスタジオについて スタジオの使用上の注意
【前期】 5～12回目	スタジオの構造について・ブースの構造と使い方 信号の流れの基本 Patch盤について
【前期】 13～20回目	マイクの種類と取り扱い(ダイナミックマイク・リボンマイク・コンデンサーマイク・DI等) ケーブルの種類と取り扱い スタンドの種類と取り扱い
【前期】 21～24回目	マシーンルームについて コントロールルームについて
【前期】 25～30回目	電源の入れ方切り方、コンピュータの取り扱い ProToolsの立ち上げ、SessionFileの初期設定 Mixerの構造の基本
【前期】 31～38回目	結線とマイクの置き方、片付け方 マイクチェックについて ProToolsでのトラック作成とルーティング
【後期】 1～16回目	ボーカルのセッティングと注意点 アウトボードのリバーブの取り扱いと信号の流れ Cueボックスの取り扱いとアーティストへの説明の仕方
【後期】 17～32回目	マルチマイクのセッティング時の方法と注意 ボーカルのセッティングと注意点 アウトボードのリバーブの取り扱いと信号の流れ
【後期】 33～48回目	Cueボックスの取り扱いとアーティストへの説明の仕方 マルチマイクのセッティング時の方法と注意 プラグインリバーブのセッティングとルーティング
評価方法	学期末の試験、及び平常点(授業態度、レポート提出状況・内容、出席率等を総合的に評価)
学生へのメッセージ	レコーディングの基礎を時間をかけて学んでいきます。反復練習こそ技術を身に付ける上で大切なことですので、積極的に機材に触りましょう。
使用教科書	オリジナルテキストを随時配布

専門学校ESPエンタテインメント東京

授業科目名	レコーディング実地演習 I	授業形態 / 必・選	演習	必修	
		年次	1年次		
授業時間	180分(1単位時間45分)	年間授業数	8回(32単位時間)	年間単位数	2単位
科目設置学科コース	レコーディングコース、PA&レコーディングコース				
授業科目要件	実務経験のある教員による授業科目		該当 <input checked="" type="checkbox"/>	非該当 <input type="checkbox"/>	
担当講師 実務経歴	各科目担当講師、及び研修先のご担当者様等。				
授業概要					
それぞれのイベント等において接客対応、現場における作業について研修を行う。					
到達目標					
現場における作業、流れ等のノウハウ習得。 イベント等を協力して作り上げることによるコミュニケーション能力の向上。					

授業計画・内容	
1回目	学校法人イーエスピー学園主催イベント
2回目	レコーディングスタジオ見学
3～4回目	学園祭準備①②
5～6回目	学園祭①②
7回目	学園祭片付け、原状回復
8回目	Inter BEE見学
評価方法	平常点(授業態度、レポート提出状況・内容、出席率等を総合的に評価)
学生へのメッセージ	この演習を通じて、現場における流れや、他社とのコミュニケーションの仕方等確りと学んでください。
使用教科書	当日の役割分担表、業務要項等を配布